

平成29年改訂学習指導要領の趣旨を踏まえた 学習評価の進め方

小学校 特別活動

この資料は、平成29年改訂学習指導要領（以下、学習指導要領）に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下、「参考資料」）の考え方を基に、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における、指導と評価の一体化に向けた取組の推進にぜひお役立てください。

目次

1	学習評価の基本的な考え方	1
2	評価の観点	1
3	「教科の目標」と「評価の観点」及び「評価内容」との関係	2
4	小学校特別活動の目標	2
5	小学校特別活動における評価の観点及びその趣旨	3
6	小学校特別活動における「内容のまとめり」	5
7	小学校特別活動における評価規準作成及び評価のポイント	6
8	小学校特別活動における学習評価の進め方	9
9	小学校特別活動における学習評価に関する事例	10
10	資料（参考）	20

1 学習評価の基本的な考え方

○学習評価とは

児童生徒の資質・能力を育成するために、目標に照らして児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握すること

○学習評価を行う上で重要なポイント

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価を行うに当たっては、児童生徒一人一人の資質・能力を育成できるようにすることが大前提です。そのためには、児童生徒の進歩の状況や教科等の目標の実現状況を適切に把握することが必要です。把握した内容は、児童生徒にフィードバックして児童生徒の学習改善につなげられるようにし、教師は自身の指導改善につなげます。このことなくして児童生徒一人一人の資質・能力の育成は望めません。つまり、学習評価を行う上で、「普段の授業の不断の見直し」が不可欠と言えます。

○学習評価の機能

指導に生かす評価・・・児童生徒一人一人の学習状況を把握し、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと

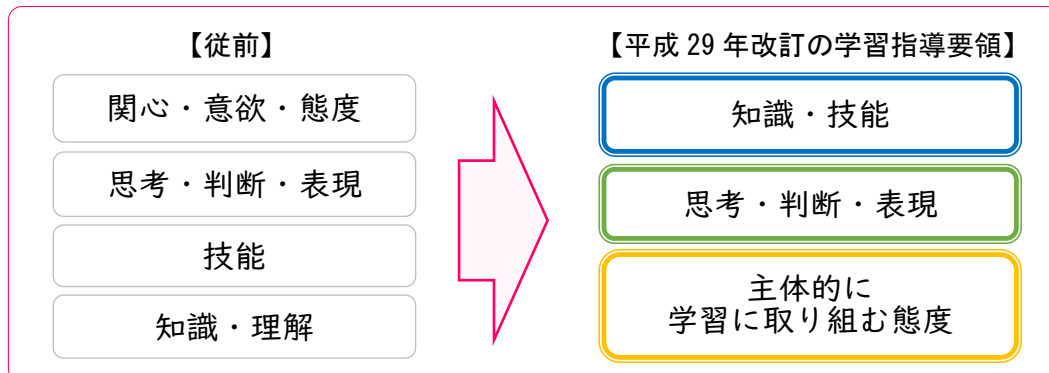
指導に生かす評価の場面は、随時存在します。児童生徒の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、必要な指導を適宜行います。

記録に残す評価・・・観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する

記録に残す評価の場面は、毎時間設定する必要はありません。児童生徒全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。単元や題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童生徒の観点別学習状況を把握し、記録します。

2 学習評価の観点

学習指導要領では、各教科等の目標や内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱を基に整理されました。目標や内容の整理を踏まえ、小・中・高等学校の各教科を通じて、評価の観点も4観点から3観点到整理されました(下図参照)。



3 「教科の目標」と「評価の観点」及び「評価内容」との関係

【学習指導要領「教科の目標」】			
	(1)	(2)	(3)
	知識及び技能に関する目標	思考力，判断力，表現力等に関する目標	学びに向かう力，人間性等に関する目標
	↓	↓	↓
【「評価の観点」及び「評価内容」】			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価内容	- 各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能を習得しているか。 - 既有の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか。	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力，判断力，表現力等を身に付けているか。	各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして，知識及び技能を習得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりするために，自らの学習状況を，把握し，学習の進め方について試行錯誤するなど，自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか。

4 小学校特別活動の目標

学習指導要領において、小学校特別活動で育成を目指す資質・能力が（１）「知識及び技能」、（２）「思考力、判断力、表現力等」、（３）「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。小学校特別活動の目標は次のとおりです。

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。	
（１） 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。	知識及び技能
（２） 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。	思考力、判断力、表現力等
（３） 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。	学びに向かう力、人間性等 ※

各活動、学校行事の目標は、学習指導要領でご確認ください。

※育成を目指す資質・能力における、（３）の「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取することができる部分と、②観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれない部分があるとされています。そのため、評価の観点は、「主体的に学習に取り組む態度」と示されています。

5 小学校特別活動における評価の観点及びその趣旨

特別活動においては、改善等通知において示されたように、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。

以下に、「評価の観点」とその趣旨の作成の手順を説明し、具体例を紹介します。

1 「評価の観点」及びその趣旨作成の手順

- (1) 学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を確認します。

改善等通知【別紙1〔2〕指導に関する記録 5 特別活動の記録】の一部

評価の観点については、特別活動の目標を踏まえ、各学校において別紙4を参考に定める。その際、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえ、より具体的に定めることも考えられる。

(例) 主体的に学習に取り組む態度→主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度

※ 下線…観点を具体的に定めた部分

- (2) 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示【別紙4】を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定します。

- 特別活動は、それぞれ特質が異なる学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事によって構成されています。特別活動の目標はこの4つの内容の目標を総括したものであるため、指導要録に示す特別活動の評価の観点についても、特別活動全体に係る観点として示します。
- 観点を設定する際には、学校として重点化を図って作成することも考えられますが、特別活動全体に係る評価が行えるようにすることが大切です。

改善等通知の例示【別紙4 4. 特別活動の記録】

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

2 「評価の観点」及びその趣旨の具体例

(1) 「評価の観点」を具体的に定めた例

観 点	よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
観 点 の 趣 旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

(2) 特別活動における資質・能力の視点（「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」）をもとに重点化を図った例

観 点	集団や社会に参画するための 知識・技能	協働してよりよい生活や人間関係を 築くための思考・判断・表現	主体的に目標を立てて共に よりよく生きようとする態度
観 点 の 趣 旨	多様な他者と協働し、集団の中で役割を果たすことの意義や、学級・学校生活を向上する上で必要となることを理解している。 よりよい生活づくりのための話し合いの手順や合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	多様な他者と協働して、よりよい生活や人間関係を築くために、集団や個の生活上の課題について話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。	学級や学校の一員としてのこれまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標をもって努力し、他者と協働してよりよく生きていこうとしている。

(3) 社会参画に重点化を図った例

観 点	多様な他者と協働するために 必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするため の思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活を よりよくしようとする態度
観 点 の 趣 旨	学級・学校生活の充実のために主体的に参画することの意義や、そのための話し合いの手順を理解している。 学級会等における合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	学級・学校生活の充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法を合意形成を図って決定したり、自分の実践目標を意思決定したりしている。	学級・学校の生活の改善・充実を図るために、多様な他者のよさを生かし、協働して実践しようとしている。 なりたい自分を目指し、これまでの自分を振り返り、これからの集団活動や生活に生かそうとしている。

6 小学校特別活動における「内容のまとめり」

小学校特別活動における「内容のまとめり」は、次のとおりです。

- 学級活動** …(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

児童会活動

クラブ活動

- 学校行事** …(1) 儀式的行事、(2) 文化的行事、(3) 健康安全・体育的行事
(4) 遠足・集団宿泊的行事、(5) 勤労生産・奉仕的行事

7 小学校特別活動における評価規準作成及び評価のポイント

特別活動においては、前述のように、設置者ではなく、「各学校で評価の観点を決める」としてします。「評価の観点」とその趣旨に照らして、特別活動で育成を目指す資質・能力を設定し、内容のまとまりごとの評価規準を作成します。以下に、観点ごとの評価規準作成と評価のポイントを説明します。

1 観点ごとの評価規準作成

(1) 「内容のまとまりごとの評価規準」作成の手順

ア 各学校で作成した「評価の観点」とその趣旨（p. 3）を確認します。

イ 以下の2つを参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定します。

- ・学習指導要領で示された「各活動・学校行事の目標」（学習指導要領で確認）
- ・学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編で例示された「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」



学級活動(1)における「知識及び技能」の例（小学校学習指導要領解説特別活動編 p. 48）

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。

ウ 【評価規準の作成のポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

【評価規準の作成のポイント】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、評価規準を作成する。 ・学習指導要領解説における資質・能力の例に示されている内容の意義を確認する。 ・文末を「～を理解している、～を身に付けている」とする。	・話し合いや実践活動における、習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉え、評価規準を作成する。 ・「表現」は、言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉えることとする。 ・文末を「～している」とする。	・自己のよさや可能性を発揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成する。 ・身に付けた「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を生かして、よりよい生活を築こうとしたり、よりよく生きていこうとしたりする態度の観点を具体的に記述する。 ・「<u>見通しをもったり振り返ったりして*</u>」という表現を用いる。 ・文末を「～しようとしている」とする。

※ 「主体的に学習に取り組む態度」は、粘り強く話し合いや実践活動に取り組む態度（粘り強さ）と自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度（自らの学習の調整）を重視するため、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用います。

○ 学級活動においては、学習指導要領解説に示した発達の段階に即した指導の目安や各学年段

階における配慮事項（小学校学習指導要領解説特別活動編 pp. 76-81）を踏まえて、以下のように評価規準を作成することが考えられます。

学級活動において発達の段階を踏まえて、2学年ごとに設定する例

学級活動(1) 1・2年生、3・4年生、5・6年生	}	発達の段階ごとに、観点別の評価規準を作成
(2) 1・2年生、3・4年生、5・6年生		
(3) 1・2年生、3・4年生、5・6年生		

(2) 「育成する資質・能力の例」及び「内容のまとめりごとの評価規準（例）」

＜例 第1学年及び第2学年 学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」＞
内容のまとめりごとの指導事項を基に、図1のように、評価規準を作成します。

育成する資質・能力の例	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
	学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようになる。	生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。
▼ ▼ ▼			
観点ごとの評価規準の例	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
	<u>みんなで学級生活を楽しくする</u> ために <u>他者と協働して取り組むこと</u> の意義を理解している。 <u>話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方</u> や <u>他者の意見の聞き方</u> を理解し、活動の方法を身に付けている。	<u>学級生活を楽しくする</u> ために、問題を発見し、解決方法について <u>話し合いの進め方に沿って</u> 合意形成を図り、 <u>仲よく助け合って実践</u> している。	<u>学級生活を楽しくする</u> ために、 <u>見通しをもったり振り返ったりしながら</u> 、 <u>自己の考えをもち、役割を意識して</u> 集団活動に取り組もうとしている。
——部…学校の実態に即して観点を具体化している。 部…発達の段階に即して具体化している。 ——部…学習指導要領における資質・能力の例に示されている内容の意義を確認している。 ——部…言語による表現だけでなく行動も含めるため、実践としている。 部…粘り強さと自らの学習の調整に関する態度を重視している。 文末 …「知識・技能」：「～している」「身に付けている」 「思考・判断・表現」：「～している」 「主体的に学習に取り組む態度」：「～しようとしている」			

図1 観点ごとの評価規準における作成の手順

2 評価のポイント

特別活動の評価で最も大切なことは、児童一人一人のよさや可能性を積極的に認めるようにするとともに、自ら学び自ら考える力や、自らを律しつつ他人とともに協調できる豊かな人間性や社会性など生きる力を育成するという視点から評価を進めていくことです。

観点	評価のポイント
全観点 共通	・活動の結果だけでなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりするようにする。 ・児童一人一人を評価する方法としては、教師による観察が中心となるが、チェックリストや児童自身の各種記録の活用など、評価方法の特質を生かして評価する。 ・児童の活動意欲を喚起する評価となるよう、児童自身の自己評価や相互評価などの学習活動を大切にする。 ・十分満足できる活動の状況の場合、その都度、○を付けたりメモ欄にその様子の記述に日付を付けてメモを書いたりする。 ・観察による教師の評価と併せて、児童自身の自己評価を参考にすることも考えられるが、児童の評価をそのまま教師の評価とすることがないよう配慮する必要がある。 ・各教科のように観点ごとの評価（ABC）や評定はなく、指導要録において、観点を踏まえて、各活動・学校行事ごとに児童の取組を評価する。
知識・ 技能	・話合いや実践活動における行動や発言、ノートやワークシートの記述などから、話合いや実践活動における意義を理解したり生活や学習に必要な知識・技能を身に付けていたりしているかなどを見取る。
思考・ 判断・ 表現	・話合いや実践活動における行動や発言、ノートやワークシートの記述などから、習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決しているかを見取る。
主体的に 学習に 取り組む 態度	・話合いや実践活動における行動や発言、ノートやワークシートの記述などから、自己のよさや可能性を発揮しながら、主体的に取り組んだり改善したりしようとしているかを見取る。

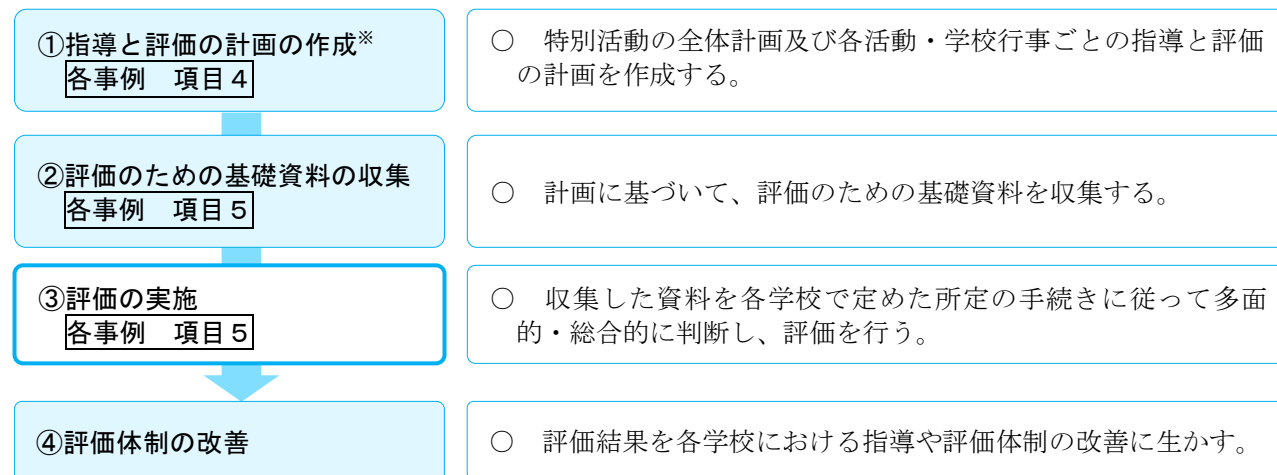
指導に生かす評価

評価については、学習指導要領第1章総則第3の2の(1)で「学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること」と示していることから、指導の改善に生かすという視点が重要である。評価を通して教師が指導の過程や方法について振り返り、より効果的な指導が行えるような工夫や改善を図っていくことが求められる。

8 小学校特別活動における学習評価の進め方

小学校特別活動における評価の手順は、基本的に次のようになります。評価を行う際は、まず、学習指導要領の目標や内容を踏まえ、年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。特別活動は、全校又は学年を単位として行う活動があり、学級担任以外の教師が指導することも多いことから、各学校には評価体制を確立し共通理解を図って、児童のよさや可能性を多面的・総合的に評価できるようにすることが求められます。

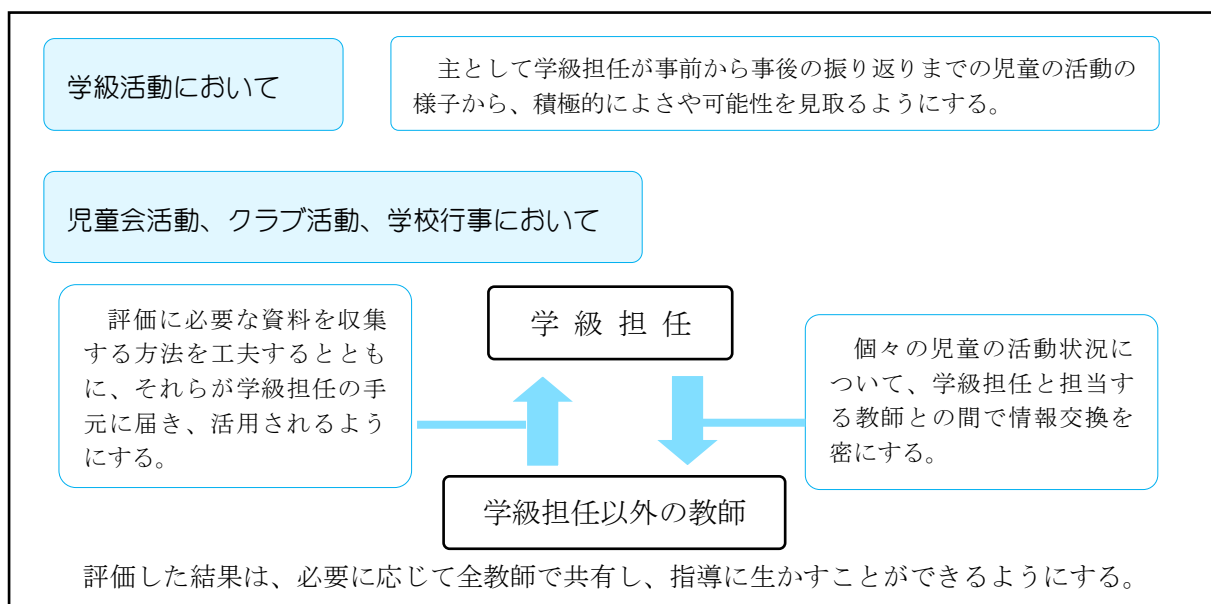
1 評価の手順



※ 1 単位時間の指導計画においては、各活動・学校行事ごとに設定した評価規準に即して、事前・本時・事後における「目指す児童の姿」を、具体的に設定することが考えられます。その際、評価場面の重点化を図ることも考えられます。

2 評価体制の確立

特別活動の全体計画及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画を基に多くの教師による評価を反映させるなど、学校としての評価体制を確立することが大切です。



9 小学校特別活動における学習評価に関する事例

事例1 キーワード…学級活動(1)の指導と評価の計画から評価の総括まで、補助簿の活用

1 議題名 第5学年「ミニミニ運動会をしよう」

内容のまとめり 学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」

2 学級活動(1)で育成を目指す資質・能力

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

3 第5学年及び第6学年の評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

議題ごとに評価規準を設定するのではなく、各学校で定めた評価の観点に基づき、2学年ごとに観点別の評価規準を作成した例を示している。

4 指導と評価の計画

(1) 事前の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿※ 【観点】〈評価方法〉
○月○日 () 業間休み	・議題案を確認し、 議題を選定する。 (計画委員会)	・議題選びの視点を念頭において、 選定することを指導する。	◎「ミニミニ運動会」への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 【主体的態度】 〈学級会ノート・観察〉 ◎活動の意義を理解し、その達成のために提案理由に即した意見を学級会ノートに書いている。 p. 14 資料 1 【知識・技能】 〈学級会ノート〉
○月○日 () 帰りの会	・議題を決定する (学級全員)	・計画委員会で選定した議題案をもとに、 学級全員で決定できるようにする。	
○月○日 () 昼休み等	・活動計画を作成する。 ・学級会の進行の仕方を確認する。 (計画委員会)	・日時や場所などの条件を「決まっていること」として教師が設定する。 ・提案者の思いや願いを学級全体の共同の問題になるように、 提案理由を深められるようにする。	
○月○日 () 帰りの会	・学級会ノートに自分の考えを記入する。 (学級全員)	・話し合うことや決まっていることが共通理解できるように、 必要に応じて助言する。 ・提案理由を踏まえて自分の考えを記入できるようにする。	
○月○日 () 昼休み等	・学級会ノートに書かれた意見を整理しておく。 (計画委員会)	・書かれた意見を基に話合いの見通しがもてるように助言する。 ・必要に応じて、児童の考えを短冊に記入するよう、助言する。	

※ 目指す児童の姿を考える際には、十分満足できる活動の状況を的確に見取るため、具体的な児童の姿をいくつか想定します。

(2) 本時の展開

ア 本時のねらい

みんなが協力・団結できるような「ミニミニ運動会」をするために、種目の内容を考えることができるようにする。

イ 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】 〈評価方法〉
1 はじめの言葉 2 計画委員の自己紹介 3 議題の確認 4 提案理由やめあての確認 5 決まっていることの確認	・めあてをもって自分の役割に臨めるようにする。 ・提案者の思いや願いを全員が理解し、学級全員の問題であることを確認する。 話合いのめあて 「みんなが協力・団結できるような種目を考えよう。」 ・決まっていることを確認する。 ①日時…○月○日○時間目 ②場所…体育館	
6 話合い 話し合うこと 「どんな種目をするか。」	・司会が進行に困ったときは方向性を示唆し、児童の合意形成を方向付けるような助言はしない。 ・自治的活動の範囲を超えそうな場合は、適切に助言する。 ・自分の意見に固執せず、納得したうえで考えを変えるなど、折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さについて助言する。	◎提案理由や話合いのめあてを意識して、自分の考えを発表している。 p. 14 資料 1 p. 15 資料 2 ◎これまでの取組の経験を生かしたり、友達の意見のよさを生かしたりして、種目を考えている。 【思考・判断・表現】 〈発言・観察〉
7 決まったことの確認 8 話合いの振り返り 9 先生の話 10 おわりの言葉	・振り返りを通して、よかった点や課題に気付かせる。振り返りを友達と交流する時間を設けることで、友達のよさを取り入れようとする態度を育てたり、「ミニミニ運動会」への意欲を高めたりする。 ・前回と比べてよかった点、合意形成したことへの価値付けや称賛、今後の課題、計画委員へのねぎらい、今後の見通しや実践に向けての意欲付けなどから主なものについて簡潔に述べる。	◎「ミニミニ運動会」への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 【主体的態度】 〈学級会ノート・観察〉

(3) 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】 〈評価方法〉
○ 月 ○ 日 () 帰りの会	・決まったことを学級会コーナーに掲示する。 ・係の役割分担をする。	・学級会で決まったことの要点をまとめて書くよう計画委員に助言する。	◎「ミニミニ運動会」のめあてを意識して、友達と協力して活動に取り組んでいる。 【思考・判断・表現】 〈学級会ノート・観察〉
○ 月 ○ 日 () ~ ○ 月 ○ 日 () ○校時 休み時間等	・係ごとに計画を立てて協力して準備をする。 ・帰りの会等で係ごとに経過報告をしたり、お知らせを伝えたりする。	・係は必ず複数名で担当し、全員で協力して、活動できるようにする。 ・準備の進捗状況を途中で確認し活動意欲の継続化を図る。	
○ 月 ○ 日 () ○校時	・「ミニミニ運動会」を行う。	・「ミニミニ運動会」のねらいを確認し、協力して実践できるようにする。 ・協力したり工夫したりして活動している児童を称賛する。	
○ 月 ○ 日 () 帰りの会	・一連の活動を振り返る。	・自分の態度を振り返るとともにめあてに基づいた振り返りを行い、自分の役割を果たすことや友達のよかったところについても認められるように助言する。	◎「ミニミニ運動会」の成果と課題を振り返り、自他のがんばりに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。 p. 14 資料 1 【主体的態度】 〈学級会ノート・観察〉

5 評価のための資料の収集及び評価の実施

(1) 学級活動(1)における児童のノートを活用した例（資料1）

学級活動(1)の評価については、話し合いのめあてや提案理由に沿って考え、発表し合っているかなど、児童の活動の様子を観察して見取ることが中心となりますが、児童のノートの記述を評価の参考にすることができます。また、児童が自分のノートを使って、話し合い活動を振り返ること、児童自身が成長を実感することや新たな課題を発見することにつなげることができると考えます。

第 5 回 5の1ハッピースマイル会議 () 氏名

☆司会G () ・司会 () ・かんさつ・記ろく ()

・副司会 () ・黒板書記 ()

議題	体育大会で、みんなが協力・団結 できるような、ミニミニ運動会にしよう。
提案者	
提案理由	9月は、運動会が、あって、練習になって、運動会で、その力を、はき、きけるし、みんな、で、楽しく、協力、でき、る、と、思、っ、た、か、ら、で、す。
決まっていること	日時：9月25日(火) 場所：体育館

めあて みんなが協力・団結 できるように、種目を考えよう。

【話し合い】

柱1 ミニミニ運動会にどんな種目がいいか考えよう。

自分の考え	自分の考え
かけこ	おうえん合せん
理由	理由
かけこをしたら、運動会の時にも生かして、がんばる、と、思、っ、た、か、ら、で、す。練習の時にも、がんばる、と、思、っ、た、か、ら、で、す。メンバーと協力、でき、る、と、思、っ、た、か、ら、で、す。	おうえん合せんを、体育大会の本番で、力、を、は、き、き、ける、と、思、っ、た、か、ら、で、す。練習の時にも、がんばる、と、思、っ、た、か、ら、で、す。メンバーと協力、でき、る、と、思、っ、た、か、ら、で、す。

メモ＆決まったこと

赤組青の対決とします。
体育たいかいの種目を、さんごう、ミニミニ運動会の種目を、さめ、ま、す。

おうえん合せん 10分
リレー 5分
組体操

体育大会で、せんが、で、る、種、目、

1. リレー
2. かけこ
3. 5人制
4. 7人制
5. 組体操
6. おうえん合せん

1. はじめの言葉
2.
3.
4.
5. おわりの言葉

◇ふり振り返り◇ (よくできたらA)

1 集団決定に進んできよう力することができたか。	A B C D
2 決まったことになっとくできたか。	A B C D
3 <フロア> めあては守れたか。 <ヨロギ> 係の仕事がしっかりできたか。	A B C D

気づいたことや感じたこと

私は、おうえん合せんに、決まり、協力・団結、でき、る、と、思、っ、た、か、ら、で、す。

資料1 児童1のノート

【主体的態度】

本事例では、4段階で話し合い活動の振り返りを行うことで、児童の自己評価の力を高めたり、評価の参考にしたりしている。児童1は、ノートの記述を参考にして、振り返りの発言の様子を観察して見取り、十分満足できる状況であると考えられる。

【知識・技能】

提案理由の「運動会でその力を発揮できる」「みんなで楽しく協力できる」という活動の意義を理解し、その達成のために意見を考えている様子から、十分満足できる活動の状況であると考えられる。

【思考・判断・表現】

体育大会本番で力を発揮することができるように「体育大会でみんなが出る種目」を事前に調べ、それに合うような意見を考えて発表している様子から十分満足できる活動の状況であると考えられる。

「ミニミニ運動会」の応援合戦では、協力・団結できるように、今日の応援練習の時に、赤組の6年生が教えてくれた応援の工夫を取り入れたいです。



児童1の振り返りの発言

(2) 学級活動(1)における児童の活動の様子を観察した例（資料2）

ここでは、本事例における実際の児童の姿から評価し、十分満足できる活動の状況と考えられる例を示します。

◇本時の展開における評価例



僕は、全員リレーがいいと思います。リレーの代表選手以外の人もリレーを楽しむことができるし、みんなで協力することができると思うからです。体育大会本番のかけっこの練習にもなると思います。

【思考・判断・表現】
提案理由の「運動会で力を発揮できる」を意識して、自分の考えを発表している様子から十分満足できる活動の状況であると考えられる。

資料2 話し合いにおける児童2の発言

(3) 観点別学習状況の評価の総括 ～評価補助簿の活用～

観点別学習状況の評価を総括する際には学校で統一した方法をあらかじめ設定しておく必要があります。以下の評価補助簿を使い、機会を捉えて、顕著な事項を見取って記録します。学期や年間を通した評価の結果を一覧で見ることができます。

【知識・技能】の評価
学級会ノートの記述から提案理由を理解しているかや、計画委員会の活動から話し合いの進め方を理解身に付けているか等を見取る。

【思考・判断・表現】の評価
話し合いの様子から、出された意見のよさを生かしたり、改善策を考えたり、組み合わせたりして考えているか等を見取る。

【主体的態度】の評価
実践の様子から、自分のよさを生かし役割に取り組んだり、友達と協働して取り組んだりし活動しているか等を見取る。

		知・技	思・判・表	主体的態度	メモ	総括
	名前	話し合いの進め方、まとめ方を理解している。	意見のよさを生かしたり創意工夫したりして、発言している。	決定したことや自分の役割を友達と協働し、意欲的に取り組もうとしている。	どのような姿を見取るのかを評価補助簿に具体的に示しておくことも考えられる。 「各観点に○が付いている場合に総括に○を付ける」など、各学校であらかじめ決めておく。	
1	A	○	○	○○	7/16 集会の準備を休み時間にも一生懸命に行った。	○
2	B	○	○	○	9/17 提案理由や話し合いのめあてを意識して、みんなが納得するような意見を発表した。 p. 15 資料2	○
3	C					

○やメモの記述がない児童について、児童のよさを積極的に見取るために、機会を捉え重点的に評価したり、課題を把握し個別の指導を図ったりし、評価を指導に生かす。

児童の様子の観察やノートの記述等を参考にしながら、機会を捉えて評価する。十分満足できる活動の状況の場合、その都度、○を付けたりメモ欄にその様子の記述に日付を付けてメモを書いたりする。

事例2 キーワード…学級活動(3)の指導と評価の計画、学習カードを活用した評価の実際

1 題材名 第3学年「本物のそうじ名人になろう」

内容のまとめり 学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現

イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」

2 学級活動(3)で育成を目指す資質・能力

- 働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要なことを理解し、行動の在り方を身に付けるようにする。
- 自己の生活や学習の課題について考え、自己への理解を深め、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。
- 現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。

3 第3学年及び第4学年の評価規準

観点	よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
評価規準	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生活するための課題に気づき、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて意欲的に行動しようとしている。

題材ごとに評価規準を設定するのではなく、各学校で定めた評価の観点に基づき、2学年ごとに観点別の評価規準を作成した例を示している。

4 指導と評価の計画

(1) 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿※【観点】〈評価方法〉
清掃に対する意識をアンケートに記入する。	これまでの自分の清掃の仕方や清掃に対する意識を振り返らせることで、題材についての児童の問題意識を高める。	◎アンケートに記入し、これまでの自分の清掃の仕方について振り返り、問題意識をもつ。 【主体的態度】（発言・ワークシート）

※ 目指す児童の姿を考える際には、十分満足できる活動の状況を的確に見取るため、具体的な児童の姿をいくつか想定します。

(2) 本時の指導

ア 目標

社会参画意識をもって清掃をするために、現在の自分に合った自己目標を考え、意思決定をする。

イ 展開

	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 (つかむ)	1 清掃に一生懸命に取り組むことができているかについて考える。	・自分の様子に加えて、友達の様子を発表したり、ペア活動で報告し合ったりすることで、自分では気付かなかったよさやがんばりに気付くことができるようにする。	
	本物のそうじ名人になるために、がんばることを決めよう。		
展開 (さぐる、見付ける)	2 どうして、清掃をするのかを考える。 3 本物のそうじ名人になるためにどうすればよいかを話し合う。	・6年生の清掃の様子や清掃への意識に関するインタビューに答える動画を見て、児童が6年生の思いを知ること、なりたい自分の姿への見通しをもてるようにする。 ・児童の学習活動1で児童が出した意見を振り返ることで、今の自分や学級の実態に合うような方法を考えさせる。 ・具体的な方法だけでなく、清掃時の心構えにも触れ、働くことの意義に考えを広げる。	◎清掃の意義を理解している。 p.19 資料3 【知識・技能】 〈発言・ワークシート〉
終末 (決める)	4 話し合ったことを生かして、自己目標を決める。	・話合いで出された意見を生かして、自分に合った自己目標を決めるように助言する。 ・自己目標を近くの児童と紹介し合い、めあてカードに清書することで実践への意欲をもたせる。	◎本物のそうじ名人になるために、自分の実態に合った自己目標を意思決定している。 p.19 資料3 【思考・判断・表現】 〈発言・ワークシート〉

ウ 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】 〈評価方法〉
・清掃の時間に自己目標に向かって実践活動を行う。 ・自己目標や実践方法を振り返る。	・清掃を行う前に、児童が自己目標を確認し、目標を意識しながら実践活動を行えるようにする。 ・定期的に自己評価を行い、自己目標や実践活動を見直すようにするため、修正可能なワークシートを用意する。 ・友達同士で互いのがんばりを認め励まししながら、実践の継続化を図るようにする。 ・教師も児童の様子を称賛したり、変容が見られる点を取り上げたりして実践活動の価値付けを行う。	◎自分が決めた自己目標に向かって実践している。 【思考・判断・表現】 〈めあてカード・行動観察〉 ◎自己のよさを生かしながら目標達成への見通しをもち、社会参画意識をもって清掃をしている。 【知識・技能】 〈めあてカード・発言・行動観察〉 ◎自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら、次の活動に向けて、主体的に行動しようとしている。 p. 19 資料 4、p. 19 資料 5 【主体的態度】 〈めあてカード・発言〉

5 評価のための資料の収集及び評価の実施

(1) 学級活動(3)における学習カードの活用及び評価の例 (資料3、資料4)

学級活動(3)「そうじ名人になろう」

名前()

1 そうじの時間に、一生けんめいにそうじをしているか。

自分のこと	みんなのこと
かたは、教室のいすを教室のすみで ではわいていいます。あつたは、 教室をきれいにし、そして、そうじを がんばっています。	かたは、教室のすみで、ゆくり、あつたを りすに、いすに、いすに、いすに、 そうじが、さうじが、さうじが、 た。

2 どうして、そうじをするのか。

そうじをすると、教室がきれいになる、気持ちいい教室になるから。

3 そうじ名人になるためには、どうすればよいか。

すみずみまで掃除の所、ふいんみんなが見えない所やしない所
をすみずみまでやりたいです。

☆話合いの後に自分が決めたためあて

次の人のことを考えながらみんな 気持ちよくする。	しゃべらずに、すみずみまで、 いつもしない所、見えない所も すみずみまでする。
-----------------------------	---

【知識・技能】

「気持ちがいい教室になるから」と具体的に清掃の意義を書いていることから、十分満足できる活動の状況であると考えられる。

【思考・判断・表現】

「しゃべらずに、すみずみまで、いつもしない所、見えない所」と具体的な行動目標を意思決定することができていると考えられる。また、「次の人のことを考えながら」と社会参画意識をもって掃除をしようと考えていることから、十分満足できる活動の状況であると考えられる。

資料3 児童2の本時の学習カード

次人のことを考えて、
すみずみまできれいにする。

ほうきに力をよくしないで
やさしくはわく。物をどかしてほうき
ではわく。

児童2は、1週間、実践活動をした後に、ほうきの使い方やすみずみまできれいにすることに課題をもち、めあてを変更している。

児童2はめあてを変更した後も、変更しためあてに向かって、進んで実践活動を行い、活動期間が終わっても自分のめあてを実践し続けようとしていた。



資料4 実践活動中に児童2が変更しためあて

資料5 進んで実践活動を行う児童2の様子

【主体的態度】

児童の記述(資料4)を参考にして、児童の活動の様子を観察して見取り(資料5)、十分満足できる状況であると考えられる。

各学校において特別活動の評価規準を作成する際の参考になるよう、参考資料（pp. 31-36）で例示されている評価規準例を以下に示します。また、小学校指導要録における特別活動の記録についての留意点を示します。

1 学級活動(1)(2)(3)における発達の段階別の評価規準例

(1) 【学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の評価規準例】

	よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
第1・2学年	みんなで学級生活を楽しむために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しむために、問題を発見し、解決方法について話合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲よく助け合って実践している。	学級生活を楽しむために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。
第3・4学年	みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合って実践している。	楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。
第5・6学年	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

(2) 【学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の評価規準例】

	よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
第1・2学年	自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組む、他者と仲よくしてよりよい人間関係を形成しようとしている。
第3・4学年	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気づき、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組む、他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。
第5・6学年	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組む、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

(3) 【学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の評価規準例】

	よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
第1・2学年	希望や目標をもつこと，働くことや学ぶことの意義を理解し，自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと，働くことや学ぶことについての課題を知り，解決方法などについて話し合い，自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生活するために，見通しをもったり振り返ったりしながら，自己のよさを生かし，他者と協働して，自己実現に向けて進んで行動しようとしている。
第3・4学年	希望や目標をもつこと，働くことや学ぶことの意義を理解し，将来への見通しをもち，自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと，働くことや学ぶことについて，よりよく生活するための課題に気づき，解決方法などについて話し合い，自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために，見通しをもったり振り返ったりしながら，自己のよさを生かし，他者と協働して，自己実現に向けて意欲的に行動しようとしている。
第5・6学年	希望や目標をもつこと，働くことや学ぶことの意義を理解し，自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち，自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと，働くことや学ぶことについて，よりよく生きるための課題を認識し，解決方法などについて話し合い，自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために，見通しをもったり振り返ったりしながら，自己のよさを生かし，他者と協働して，自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

2 児童会活動における評価規準例

観点	よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
評価規準	楽しく豊かな学校生活をつくる児童会活動の意義について理解するとともに、活動の計画や運営の方法、異年齢集団による交流の仕方などを身に付けている。	児童会の一員として、学校生活の充実と向上を図るための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりして主体的に実践している。	楽しく豊かな学校生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、多様な他者と互いのよさを生かして協働し、児童会の活動に積極的に取り組もうとしている。

3 クラブ活動における評価規準例

観点	よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
評価規準	同好の仲間で行う集団活動を通して興味・関心を追求することのよさや意義について理解するとともに、活動を計画する方法や創意工夫を生かした活動の進め方などを身に付けている。	クラブの一員として、よりよいクラブ活動にするために、諸問題を見いだしたり、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりしながら実践している。	共通の興味・関心を追求するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働し、自分のよさを生かしてクラブの活動に積極的に取り組もうとしている。

4 学校行事における評価規準例

観点	よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
儀式的行事	儀式的行事の意義や、その場にふさわしい参加の仕方について理解し、厳粛な場におけるマナー等の規律、気品のある行動の仕方などを身に付けている。	学校や学年の一員として、よりよい学校生活にするために、新しい生活への希望をもって、集団の場において規則正しく行動している。	厳粛で清新な気分を味わい、儀式的行事を節目として、見通しをもったり振り返ったりしながら、これからの生活への希望や意欲を高め、儀式的行事に積極的に取り組もうとしている。
文化的行事	文化的行事の意義や日ごろの学習成果を発表する方法、鑑賞の仕方について理解し、互いに発表したり、鑑賞し合ったりする活動に必要な知識や技能、マナーなどを身に付けている。	学校や学年の一員として、楽しく豊かな学校生活にするために、多様な文化や芸術について自他のよさについて考えたり、学習の成果を発表し合ったりして、互いのよさを認め合いながら実践している。	多様な文化や芸術に親しむとともに、自他のよさを見付け合い、自己を伸長し、見通しをもったり振り返ったりしながら、文化的行事に積極的に取り組もうとしている。
健康安全・体育的行事	心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等の非常時から身を守るなどについてその意義を理解し、必要な行動の仕方など身に付けている。 体育的な集団活動の意義を理解し、規律ある集団行動の仕方などを身に付けている。	学校や学年の一員として、健全な生活にするために、自己の健康や安全についての課題や解決策について考えたり、運動することのよさについて考えたりし、適切に判断し実践している。	心身の健全な発達や健康の保持増進に努め安全に関心をもち、運動に親しみ体力を向上するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、健康安全・体育的行事に積極的に取り組もうとしている。
遠足・集団宿泊的行事	遠足・集団宿泊的行事の意義や校外における集団生活の在り方、公衆道徳などについて理解し、必要な行動の仕方を身に付けている。	学校や学年の一員として、よりよい集団活動にするために、平素とは異なる生活環境の中での集団生活の在り方について考えたり、共に協力し合ったりしながら実践している。	日常とは異なる環境や集団生活において、自然や文化などに関心をもち、見通しをもったり振り返ったりしながら、遠足・集団宿泊的行事に積極的に取り組もうとしている。
勤労生産・奉仕的行事	勤労や生産の喜び、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う意義について理解し、活動の仕方について必要な知識や技能を身に付けている。	学校や学年の一員として、よりよい学校・社会にするために、自他のよさを生かし、よりよい勤労や生産の在り方、働くことの意義や社会奉仕について考え、実践している。	学校や地域社会のために役立つことや働くこと、生産すること、他者に奉仕することに関心をもち、見通しをもったり振り返ったりしながら、勤労生産・奉仕的行事に積極的に取り組もうとしている。

3 小学校児童指導要録の特別活動の記録について

- 各学校で定めた評価の観点を児童指導要録に記入した上で、各活動・学校行事ごとに、十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入します。学習指導要領に示す特別活動の目標や学校として重点化した内容を踏まえ、下の記入例のように、より具体的に評価の観点を示すことが考えられま

【小学校児童指導要録（参考様式）様式2（第5学年）の記入例】

特 別 活 動 の 記 録		1	2	3	4	5	6
内容	観 点						
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能	○		○	○	○	
児童会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現		○			○	
クラブ活動	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度				○		
学校行事	余白		○	○		○	

児童会活動は、第1学年から第6学年までの全児童で組織する児童会による異年齢集団活動である。よって、低学年においても活動の状況を適切に評価する。

実施しない学年に斜線を引く。

例えば、児童指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に、「『自然の教室』で、めあてに向かって自分の役割を責任をもって行うとともに、友達と協力して野外活動に取り組んでいた。」と記入するなど、○を付けた根拠を示すようにする。

☆十分満足できる活動の状況について

指導と評価に当たっては、各学校で十分満足できる活動の状況とは児童のどのような姿を指すのかを検討し、共通理解を図ってその取組を進めることが求められます。その上で、「目指す児童の姿」に照らして、十分満足できる状況が見られた場合に児童指導要録に○を付けます。

☆学級活動(1)(2)(3)の評価を総括して児童指導要録に○を付ける工夫例

児童指導要録には、学級活動(1)(2)(3)のそれぞれの実践を基にした評価を総合的に判断して、学級活動として十分に満足できる活動の状況であると判断できる児童に○を付けることになります。ここでは、学級活動全体を総括して評価し、児童指導要録に○を付ける方法の例を示します。

児童指導要録に○を付ける例

	(1)の総括	(2)(3)の総括	児童指導要録
名前			
A	○	○	○
B	○		
C	○		○

A児のように、学級活動(1)及び(2)(3)のどちらも○となった場合、児童指導要録に○を付ける。

C児のように、学級活動(2)(3)に○を付けていない場合でも、学級活動(1)の活動において、多くの場面で創意を生かして話し合ったり、友達と協働し、意欲的に取り組んでいたことから、児童指導要録に○を付けることも考えられる。

参考資料

- ・ 国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校特別活動』 令和2年3月
- ・ 文部科学省 『小学校学習指導要領解説特別活動編』 平成29年7月
- ・ 国立教育政策研究所 『学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編』 令和元年6月
- ・ 文部科学省／国立教育政策研究所 教育課程研究センター
「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」（教師用指導資料）平成30年12月
- ・ 文部科学省 『初等教育資料 2019年6月号 No.981』
- ・ 文部科学省 『初等教育資料 2020年3月号 No.991』
- ・ 文部科学省 『H29・30年度改訂の学習指導要領下における学習評価に関するQ&A』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/qa/1421956.htm
- ・ 文部科学省 『小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）[別紙4]各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学校）』
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1415195.htm